

報 道 発 表 資 料

平成 24 年 1 月 26 日
気 象 庁
(独)防災科学技術研究所

気象庁および(独)防災科学技術研究所の 火山観測データの流通・ホームページ公開について

火山噴火予知連絡会は、火山噴火予知に関わる国の関係機関や大学等の火山観測データを共有し、専門的な知見から火山活動の評価を行うとともに、火山監視・観測の強化及び調査研究の推進に関わる方策について検討を行っています。

平成20年2月に火山噴火予知連絡会に設置された「火山観測体制等に関する検討会」は、火山観測網およびデータの流通・共有のありかたについて検討を行い、平成22年2月に、関係機関の火山観測データの流通・共有を拡大することが火山の調査研究及び火山防災にとって不可欠であるとの検討結果を火山噴火予知連絡会へ報告しました。

この報告をふまえ、気象庁及び防災科学技術研究所は、火山の調査研究及び火山防災を推進するため、近年整備してきた火山観測網（参考1、2参照）によって得られた高品位のデータを火山の研究者や防災関係者等に流通・共有することとし、ホームページで公開することとしました（別紙参照）。

本件配布先：文部科学記者会、科学記者会、筑波研究学園都市記者会、気象庁記者クラブ

本件に関する問い合わせ先

気象庁地震火山部火山課

火山対策官

電話：03-3212-8341（内線4530）

独立行政法人防災科学技術研究所

火山観測管理室

電話：029-863-7571

ホームページ公開する観測データについて

1. 公開する観測データの内容と火山数等

- ・観測データの内容

- 地震波形、空振波形

- 傾斜計（防災科研のみ）

- ・火山数等

- （気象庁） 47 火山 149 観測点

- （防災科研） 8 火山 22 観測点

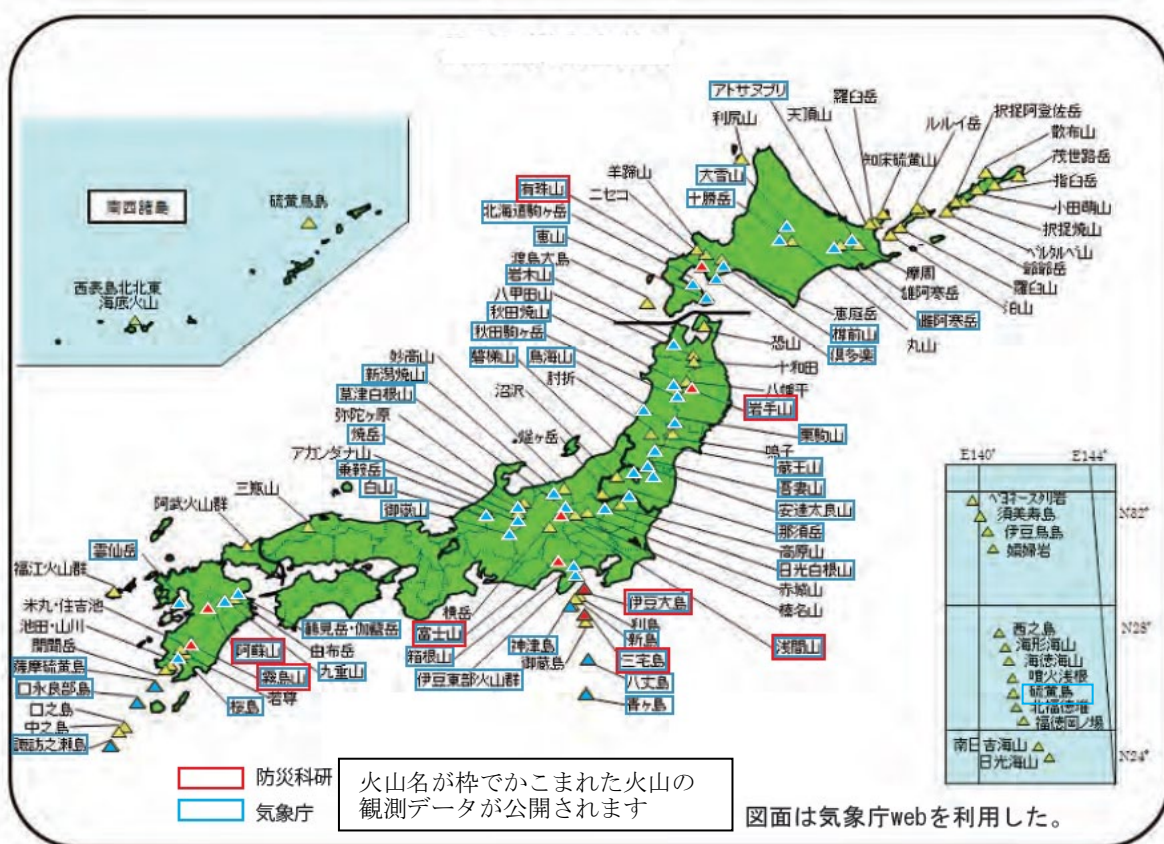


図 観測データが公開される火山（赤枠：防災科学技術研究所、青枠：気象庁）

2. 公開方法

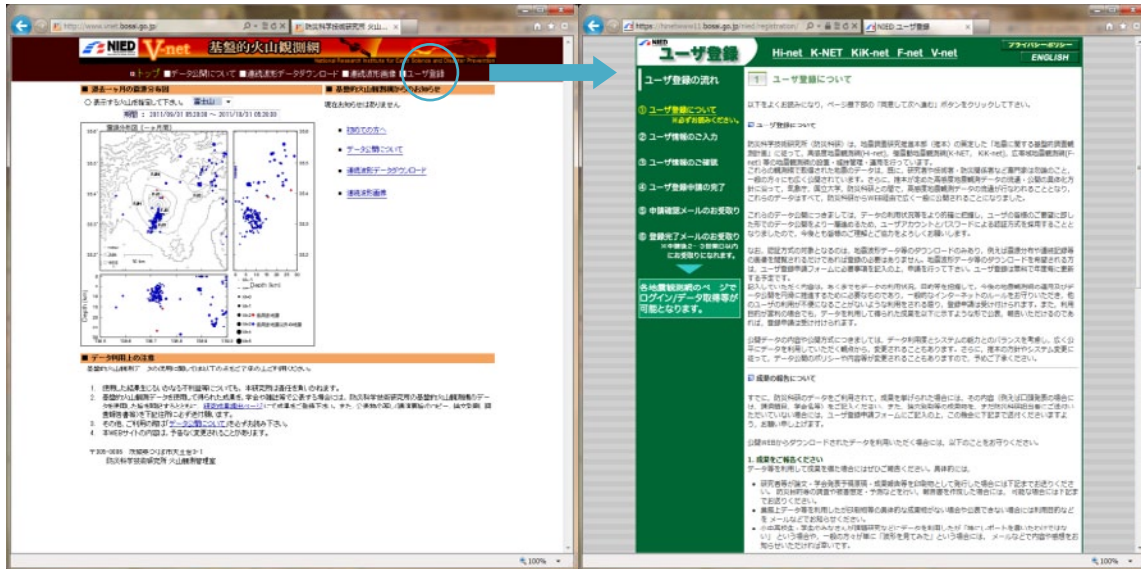
防災科学技術研究所のホームページからデータをダウンロードできます。なお、データ利用に際しては、ユーザー登録が必要です。

（基盤的火山観測網、<http://www.vnet.bosai.go.jp/>）

3. データ公開の開始日

平成24年1月26日から

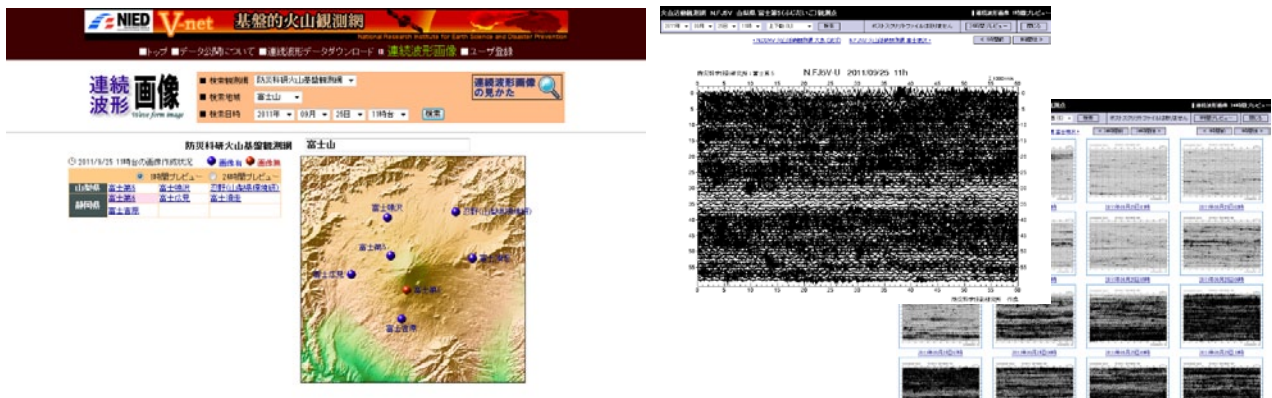
4. ホームページ (V-net トップページ) とユーザ登録



<http://www.vnet.bosai.go.jp>

データをご利用いただくには、メニューの [ユーザ登録] から、ユーザ登録をお願いいたします。

5. 公開データのイメージと波形例



観測点の位置と観測点別の波形画像をご覧ください。波形画像は、個別の波形と24時間プレビュー等がご利用いただけます。

気象庁の火山観測網整備

気象庁では、火山災害の軽減を図るため、噴火警報等の的確な発表に努めています。全国110の活火山のうち活動が活発な火山について、関係機関の協力を得ながら地震計、傾斜計、空振計、GPSなどの観測データを全国4か所の火山監視・情報センターに集め、地震活動や地殻変動の状況等の火山活動を24時間体制で監視しています。

気象庁は、火山噴火予知連絡会において中長期的な観点から監視・観測体制の充実が必要とされた47火山（下図に赤い三角で示された火山。北海道地方9火山、東北地方10火山、関東・中部地方・伊豆・小笠原諸島19火山、九州地方9火山、うち13火山は新規追加）に、平成21年度から22年度にかけて、地震計・傾斜計等の火山観測施設を整備しました。これにより、既存の気象庁火山観測施設、防災科学技術研究所や大学等の観測施設とあわせ、火山監視体制の充実・強化が図られています。

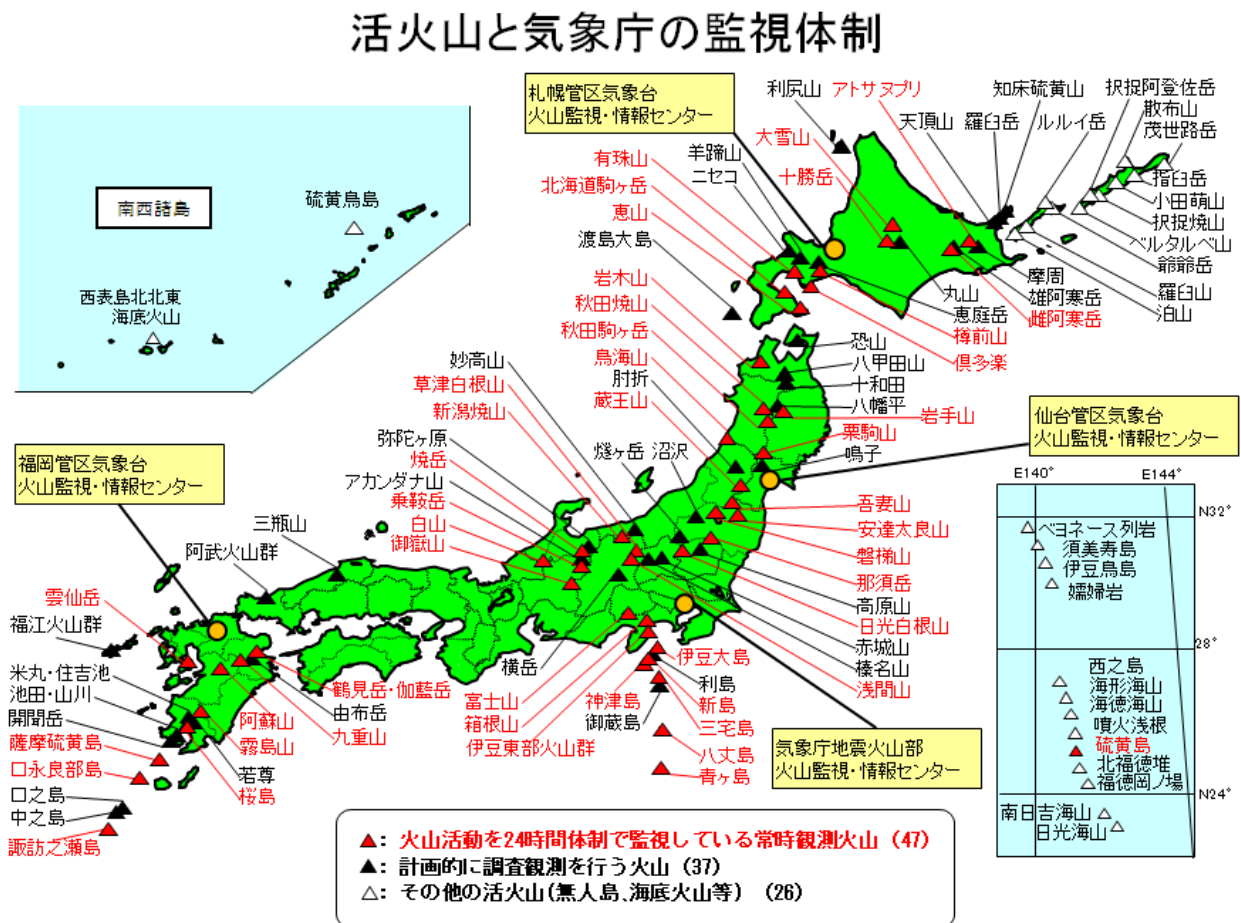


図 我が国の活火山と気象庁の火山監視体制

防災科学技術研究所の火山観測網整備

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光、以下「防災科研」と略記。）は、これまで伊豆大島、三宅島、富士山に孔井式地震傾斜観測装置、広帯域地震計、GPSなどを装備した火山観測施設を整備し、これらの観測機器が地下のマグマの動きを把握するのに有効なことを示してきました。一方、科学技術・学術審議会測地学分科会火山部会では、「今後の大学等における火山観測研究の当面の進め方について」（平成20年12月）において、大学の火山観測研究を重点化する火山として、阿蘇山など16火山を選択し、防災科研等がこれらの火山に基盤的な観測施設を整備支援を進める方針を打ち出しました。

これを受け防災科研では、平成21年度に有珠山（1箇所）、岩手山（1箇所）、浅間山（2箇所）、阿蘇山（2箇所）、霧島山（2箇所）で火山観測施設を整備に着手しました。各火山ではそれぞれの火山で連続観測を実施している大学や気象庁と連携し、火山噴火予知研究や火山監視に役立つように観測点を効果的に配置しました。新しい観測施設は山頂火口からほぼ3～7kmの範囲にあります。これらの観測施設は、深さ200mの観測井の孔底に設置された孔井式地震傾斜観測装置、地表付近に設置された広帯域地震計とGPSから構成され、平成22年9月までに整備作業は完了し、現在、観測データは常時つくば本所に伝送されています。



図 防災科研が整備を進めた火山観測地点